



インドネシア

BOP層実態調査レポート

- 調査実施日: 2012年10月
- 調査場所: ジャカルタ首都特別州南ジャカルタ市クマン郡ペラ・マンパン区の一般家庭
- 調査対象: ジュンピ氏(男)、60歳代、運転手、妻1人(主婦)・子供3人・孫2人
ワンティさん(女)、40歳代、主婦、夫1人(教員)・子供2人

概要

BOP層における家庭水の水源は、その居住地によって様々である。都市部で水道が引かれているところでは水道水である。

水道水は、富裕層のように揚水ポンプで家屋の上部に置かれたタンクに溜めるといったことはほとんどないが、沐浴場兼トイレ(Kamar Mandi)の水溜りに水を溜め、それを使う場合がある。台所用には、バケツに水を溜め、必要に応じて柄杓(ひしゃく)で水を汲んで、食器洗いなどに使っている。これは、蛇口から水道水が出るとはいえ、垂れ流すよりも水道代を節約する知恵である。

水道水はそのまま飲み水として飲むことはできない。以前は水道水を煮沸し、空き瓶などに入れて飲み水としていた。灯油コンロで沸かすので、煮沸した水にその匂いがついていたものである。最近では、飲み水としてはミネラルウォーターを購入する場合も出てきた。ジャカルタの南ジャカルタ市クマン郡ペラ・マンパン区のジュンピ氏の家で



ガス台の下の蓋付きバケツの上に柄杓が置かれているのが見える。



井戸水を使って洗濯をする女性たち。色はやや黄色く濁っていた。

は、ミネラルウォーターのガロンボトルがディスペンサーに備え付けられていた。

水道水の外には、井戸水も使われるが、水道水と井戸水の両方があるところでは、水道水は飲料用、井戸水は洗濯、沐浴、トイレなどに使われる。ジュンピ氏の家近くの井戸水は、やや黄色く濁っているだけでなく、塩分も含まれているが、近所のワンティさんはじめ女性たちは、せっせとその水で洗濯をしていた。地方の村などでは、水道水がなく、井戸水しかないところでは、毎日、大きなバケツに井戸水を汲んで、家まで何度も往復しながら水を運び、家庭水として使っている。





場所によっては、家から井戸までの距離がかなり遠く、水の調達が毎日の重労働となっている。同時に、井戸の近くは共同の洗濯場となり、まさに女性たちの井戸端会議の舞台となっている。

井戸以外に、河川が洗濯場となっているケースも多いが、河川水を飲用に使うことはなく、飲用には水を「買う」ことが多い。

水を買うケースは、ジャカルタの街中でも見られる。水をポリタンクに入れて売り歩く水屋から水を買うのである。水屋は、大八車(大きなリヤカー)に水の入ったポリタンクを10個以上積み、馴染み客のところへ水を運び、代金を支払ってもらう。農村や離島では、水屋が朝方に各家庭から空のポリタンクを回収し、水場へ持って行って水を汲み、夕方それを各家庭へ配達するという商売が成り立っている。集落単位では、ポリタンクではなくドラム缶で水を購入する場合もある。水を買うという行動の延長線上に、ミネラルウォーターを購入するという行動があるように思える。



ジャカルタの街中で活動する水屋。ポリタンクに水を汲み、大八車に乗せて売り歩く

これらのほか、政府の住民エンパワーメント・プログラムの資金を使って、山などの水源からパイプを引き、それを貯水タンクにつなげて、住民に水を供給しているところもある。政府は、沐浴(mandi)・洗濯(cuci)・トイレ(kakus)を一体化したMCKという共同利用の水場を各村に普及するプログラムを長年実施してきたが、水源としては認知されていても、必ずしも有効に活用されていないケースもあるようである。たとえば、南スラウェシ州の農村などでは伝統的に家屋にトイレがなく、野原などで用を足すのだが、そういった所ではMCKを作ってもトイレとしては活用されないことが多い。

家庭排水は、濾過装置などで処理されて排水される場合もあるが、多くの場合、垂れ流しである。都市部も含めて、下水道の整備が大きく遅れているためである。

所感

上下水道の整備が遅れているインドネシアでは、飲用の水は外部から買い、洗濯・沐浴・トイレ用の水は井戸水や河川水などを活用するという仕分けがなされている。この仕分けのできないところでは、井戸水などを使い、飲用には煮沸して使っている。昨今、全国各地でミネラルウォーターが安価で手に入るようになり、水屋の商売を脅かし始めている。

清潔な水へのアクセスという点では、井戸水、河川水、雨水などに頼らざるを得ない地域に焦点を当て、浄水錠剤の普及や簡易な浄水システムの導入をBOPビジネスとして考慮できるのではないかと。他方、家庭排水についてはまだほとんど配慮がされていないので、抜本的な改善は下水道整備を進める以外にはないものの、当面の簡易な排水処理法などにもBOPビジネスを考える余地が大いにあると思われる。



【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。